ぐるっと人めぐり

JA常陸大宮地区枝物部会長
石川（いしかわ）幸太郎（こうたろう）さん（68）

放棄地を有効活用

「今は、クリスマスリース用のコニファー類の出荷で忙しい。正月用の青竹の器、金銀に染めたウンリュウヤナギの注文もあり、会員が力を合わせて、対応している」。成長を続ける枝物販売を笑顔で話す。

枝物部会は2005年、9人で設立した。「常陸大宮市内は耕作放棄地ばかりで、何とかしなければならないと思った。農業の担い手はおらず、勤めながらできるのが枝物だった」。当初、栽培面積は3・8㌶、初年度の販売は89万円だったが、「枝物は収入は少ないが、自分のペースでできる」と、会員や栽培面積は増加の一途をたどった。

昨年度は会員79人、42・6㌶で7600万円を売り上げた。かつて荒れ放題だった畑地は、さまざまな木々が植えられ、景観も見違えるほど良くなった。「土地を貸してくれた住民も喜んでいる。中山間地域の活性化につながっている」と胸を張る。

年明けの2月には、東京市場での評価も高いブランド「奥久慈のハナモモ」の出荷が始まる。「本年度は9千万円を超える。目標の1億円も見えてきた」。先頭に立って枝物を引っ張る顔は、花が咲いたように自信にあふれている。

（蛭田稔）